

## TAKUNI, Y.-Five interesting spiders from Japan Highlands

## 面 白 い 日 本 の ク モ 5 種

千 国 安 之 輔

## は し が き

昭和16年に信濃教育会南安曇郡部会発行の拙著「日本アルプス山系の蜘蛛」に記載した日本アルプスを中心とした高山性の蜘蛛類のうち、まだ学名や和名の決定していない蜘蛛類が十数種そのまま残されていた。終戦後、これらのものを明確にするために、ここ数年間研究を続けてき、そのうち次の五種類の記載と原図とを作つてみた。

戦前の研究以来ずっと続けて御指導いただいている植村利夫先生の御指導と御配慮とでこのオ一次の報告をすることにして準備をしてきたところ、たまたま、岸田久吉先生からも非常な御多忙中と酷暑の折にもかかわらず記載の御校閲や種の同定をはじめその他いろいろと特別な御高配をいただいて、ここに発表できる運びとなつたことをたいへんうれしく思い、両先生に対して深甚の感謝をささげる次第である。

1) *Otunus delicatus* KISHIDA, 1933 (Fam. Linyphiidae)(Fig. 1, 原色図2)

オツヌグモ (岸田久吉氏 1933 命名) [オツヌは小角であつて、有名な役小角なる行者の名をとつたものである由] (従来ハイマツヒメグモ [千国仮称] としていたもの)

昭和28年(1953年) 8 月 1 日筆者が長野県北安曇郡白馬岳頂上 (2933m) のハイマツの根本の岩間にできた薄暗い凹んだ穴に棲む本種を採集した。本種は穴の口もとに水平に直径 15~20cm 程の極く薄い膜状の網を作つて、その中央の下面にあお向けに座していた。この種は外に常念岳のハイマツ帯でも筆者によつて数個体発見されている。

所検標本 前記の♀1頭は筆者の No.123 として保存してある。

測定 ♀ (成) の体長は 3.6mm, 頭胸部の長さは 1.5mm, 同幅 1.2mm, 腹部の長さ 2.3mm, 同幅 1.5mm, 触肢の長さ 2.3mm, 歩脚の長さは次の表に mm の単位で示す。

節 歩脚	基・轉	腿	膝	脛	跗	趾	全 長
第 1	0.5	2.8	0.5	2.6	2.6	1.5	10.5
第 2	0.5	2.5	0.5	2.1	2.0	1.3	8.9
第 3	0.5	2.0	0.5	1.8	1.8	1.0	7.6
第 4	0.3	3.0	0.5	2.5	2.6	1.5	10.4

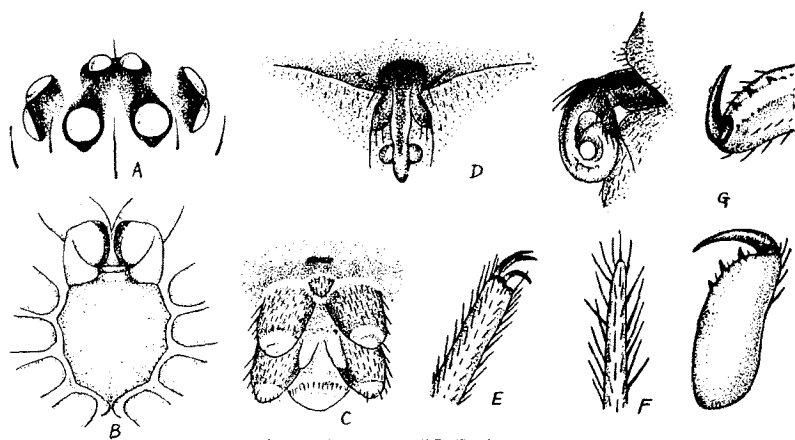


Fig. 1. オツヌゲモ *Otuus delicatus* KISHIDA

A. 眼域 (Eyegroup), B. 胸版と口器下面 (Sternum, mouth-parts from beneath) C. 蛛疣 (Spinnerets) D. 左♀の性域 (Epigynum) 下面より右, 同側面より (Sideview), E. 歩脚の爪 (Claw) F. ♀ 触肢の跗節 G 上右顎 (Right Chelicera) の牙境, 下, 同前面より.

**形態(♀)頭胸部:** 背甲の長さは幅より大きく、頭部が高い。中窩は縦長で、放射溝や頸溝は明瞭である。眼は直眼(前列中眼)だけが小さく、他はほぼ同大である。直眼は前方に相接近して、相互の距離は眼の直径の約 $\frac{1}{2}$ である。直眼と後列中眼とは後方の広がった台形に位置し、後列中眼は相互の距離並びに直眼からの距離がほぼ、その眼の直径に等しい。前列側眼及び後列側眼は互に相接して側方に斜前方と斜後方ともに向いている。後列中・側眼間にはほぼ眼の直径に等しくこれらはほぼ一直線上にある。これに対して前列中・間眼は\*前曲(∩)している。大顎は背甲の長さの約 $\frac{1}{2}$ で斜前方にやや左右に開いてついていて平滑である。前牙堤には3本の歯が列生し、その中2本は長く1本は短い、後牙堤には極く小さな歯が4本列生している。下顎の長さは上顎の約 $\frac{1}{2}$ で長方形に見え、先端に細毛を生じている。下唇部は横に広い四角形でその長さは下顎の約 $\frac{1}{2}$ である。触肢は末端(跗節)が細くなつていて、細毛を密生し、爪がない。歩脚は体に比して比較的長く、特に才4, 才1歩脚が最長で殆ど等しい長さを持ち、才2, 才3歩脚がこれについている。各歩脚とも脛節から次々に細くなり、趾・跗節が極端に細いのが目立っている。脛節、脛節には各々数本の刺毛と多数の細毛を備え趾・跗節には細毛が多数列生している。歩脚の先端には何れも、上爪2本、下爪1本計3本の爪をもっている。胸板は円形に近い形をしていて、細毛をまばらに生じている。

**腹部:** 腹部は卵形で全体に細毛を密生している。胃外溝、書肺気門、性域は明瞭である。腹部の後端には3対の蛛疣があり、前・後疣は大きく、中疣はずっと小さい。何れも細長いが単節で細毛をまばらにつけている。

\* 眼列曲の表現は一般に(∩)(Procurve)を前曲とされているが岸田久吉氏の慣用に従つて(∩)を前曲とした。

**色彩**(♀)頭胸部：背甲は黄褐色で、単眼の週辺は図のように黒色に染められ眼は中性である。

上顎は赤褐色で、牙の基部及び歯は黒褐色になっている。

下顎は黄褐色で、下唇部は黒色である。

胸板は黒色で、触肢及び歩脚は黄褐色で、すべて斑紋を欠き刺毛や爪は黒色である。

腹部：腹部の上面には灰色の地に図のような茶黒色の斑紋があり、斑紋の週辺には、まばらに白点がある。腹部の側面から下面にかけては全体が茶黒色におおわれ、性域は茶褐色である。蛛疣は黄褐色である。

**備考** 本種は岸田氏が1908年8月2日、石川県白山で採集の♂成蛛にもとづいて記載されたもので、終戦後、日本生物学会及び岩浅洋々書房共催の白山夏季大学の際には♀♂共成体が採集されたとのことである。

## 2) *Menosira ornata* KISHIDA 1939 (Fam. Argiopidae)(Fig. 2, 原色図4)

キンヨウグモ (岸田久吉氏命名1939)[腹部背面のようになんで、金用蛛の意味でつけられたと云う。ドヨウグモ=土用蛛→土曜蛛 金用蛛→金曜蛛としてみたら、おもむきがある]

アズミグモ (1941 千国仮称)[安曇村の蛛の意味]

昭和13年(1938年)7月29日、長野県南安曇郡安曇村水源川沢上流(標高1300m)の樹木間で筆者が最初に採集した標本は、♀成2頭、♂成1頭で、♀の1頭は植村利夫氏に送り、他の♀♂各1頭ずつは筆者が保存しアズミグモ(仮称)としてその中の♀の1頭の全形を写真に撮り、「日本アルプス山系の蜘蛛」のオグ六図版1に載せ、同83ページに簡単に記載を附しておいた。その後戦争中に標本は全部火災のため焼失してしまった。

昭和23年(1948年)7月24日、長野県南安曇郡鳥川村須砂土(800m)で♀(幼生)1頭が矢野俊和君によつて採集され、昭和26年(1951年)9月17日、長野県南佐久郡北牧村松原湖附近(1200m)で♂(成)1頭、昭和27年(1952年)10月4日、長野県南佐久郡野辺山(1300m)で♀♂(成)各1頭、昭和28年(1953年)10月7日、長野県上水内郡高沢(黒姫山山麓、標高1100m)で♀♂(成)各1頭ずつがそれぞれ筆者によつて採集されている。その後、昭和28年(1953年)に長野県南安曇郡有明村中房温泉附近(1600m)、同県東筑摩郡保福寺峠(787m)で♀(成)各1頭ずつが清沢晴親氏によつて採集された。この記載にあつてその標本を参考的にお借りすることができたことをこゝに感謝する次第である。従つて現在までに採集されたことの私にわかつている個体数は、♀7頭、♂4頭となるわけである。

**所検標本** 前記のように標本は昭和28年(1953年)10月7日、黒姫山山麓で採集された♀♂(成)各1頭をよりどころとし、他は参考的に比較検討して記載した。標本は筆者の No. 127, 128 として保存してある。最初の発見地が南安曇郡の安曇村であること

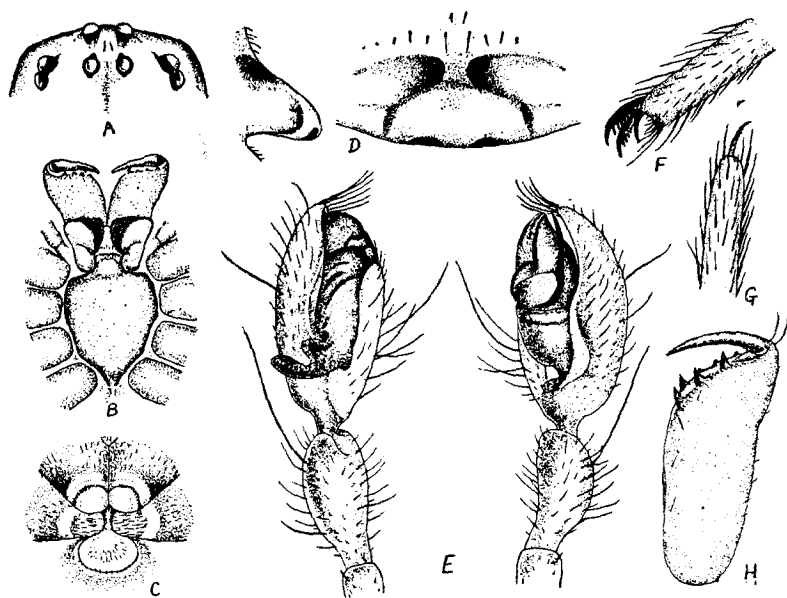


Fig. 2. キンヨウグモ *Menosira ornata* KISHIDA

A. 眼域 (Eyegroup) B. 胸板と口器下面 (Sternum, mouth-parts from beneath) C. 蜘蛛 (Spinnerets) D. 左♀の性域 (Epigynum). 側面より (Sideview) 右同下面より (from beneath), E. 左♂の性域上面より (Palpus of male from above) 右, 同下面より (from beneath), F. 歩脚の爪 (Claw) G. ♀ 触肢の趾節 (Tarsal claw) H. 右の上顎 (Right Chelicera)

を記念して、名をアズミグモと仮称した。

測定 (♀)(成) の体長 9.0mm, 頭胸部の長さ 3.5mm, 同幅 2.8mm, 腹部の長さ 6.0mm, 同幅 3.5mm, 触肢の長さ 5.0mm, 歩脚の長さは次の表に mm の単位で示す。

♀成	節	基・轉	腿	膝	脛	跗	趾	全 長
	歩脚							
	第 1	1.5	8.0	1.5	8.0	9.5	3.5	32.0
	第 2	1.5	6.5	1.5	6.0	6.5	3.0	25.0
	第 3	1.5	4.0	1.0	3.0	2.5	1.0	13.0
	第 4	1.5	5.5	1.0	4.0	4.0 <sup>*</sup>	1.0	17.0

♂成	節	基・轉	腿	膝	脛	跗	趾	全 長
	歩脚							
	第 1	1.0	6.5	1.2	7.0	8.0	3.0	26.7
	第 2	1.0	5.0	1.0	5.0	5.0	2.0	19.0
	第 3	1.0	3.0	1.0	2.0	2.0	1.0	10.0
	第 4	1.0	4.0	1.0	3.0	3.5	1.0	13.5

♂ (成) の体長 6.0mm, 頭胸部の長さ 2.8mm, 同幅 2.0mm, 腹部の長さ 3.5mm, 同幅 2.0mm, 触肢の長さ 2.2mm, 歩脚の長さは上の表に mm の単位で示す。

**形態** (♀) 頭胸部: 背甲の長さは幅より大きく, 全体が長いダルマ形である。頭部は胸部よりやや高く, 縦長に楕円形の中窩が深く落ちくぼんでいて, 放射溝及び頸溝も明瞭である。眼は四対共大きさとしと略等しいが, 直眼 (前列中眼) は前方を向き, 上方を向いている後列中眼と共に正方形を形作る位置にあり, その各々の眼の間の距離は直眼の直径には等しい。前列側眼と後列側眼とは両側面に斜め前方及び斜め後方に向いて位置し, 互に相接している。前列側眼は後列中眼を結んだ一直線上に, 眼の直径の約 2 倍距つたところに位置している。従つて後列側眼はこの直線のすぐ後方にあるわけである。上顎の長さは背甲の長さの約  $\frac{2}{3}$  あつて, 頭部に垂直についていて, 毛は少ない。前牙堤には 3 本の大きな歯が列生し, 後牙堤には 3 本の小さな歯と 1 本の大きな歯とが列生している。下顎の長さは上顎の約  $\frac{2}{3}$  程で基部は細く, 先端にいくに従つて幅広く基部の 2 倍程に広ががついて, 内縁には細毛が寄生している。下唇部はやや正方形に近く, 下顎の半分よりやや短い。触肢の末端には数本の刺毛と多数の細毛とがあり, 先端に 1 本の爪がある。歩脚の先端には何れも 3 本の爪があり, 上爪 2 本には歯が櫛状に並び, 下爪には歯がない。各々の歩脚の腿・脛・跗節には, それぞれ数本の長大な刺毛を数えることができる。胸板は心臟形の五角形で点々と細毛がある。

腹部: 腹部は長卵形で, 胃外溝, 書肺気門, 性域は明瞭である。後端の下面に三対の蛛疣があり, 間疣は小さくて前・後疣におゝわれているので通常見えない。何れも単節で, 細毛をまばらにつけている。

(♂) は触肢の脛節に少数の刺毛があり, 跗節には卵形の性器がある。腹部は♀より細長い。その他の形態は♀と同様でやや小形である。

**色彩** (♀) 頭胸部: 背甲は黄褐色で頸溝及び中窩にそつて黒褐色の斑紋が Y 字形についている。上顎は赤褐色で牙堤及び牙齒は黒褐色になつている。下顎及び下唇は濃褐色で, 下顎の先端は黒褐色になつている。胸板及び触肢, 歩脚は共に背甲と同じく黄褐色で, 各歩脚の脛・跗・跗節の両端は淡黒褐色に染まつている。脚及び触肢の刺毛と爪とは黒色である。眼の色は中性で眼縁は黒色である。

腹部: 腹部の上面には心臟斑にそつて図のような鮮黄色の斑紋があり, 斑紋の後方の左右には二対の黒斑点がある。斑紋の縁は濃赤色の線で囲まれ, 斑紋外は腹部下面まで一様に灰褐色の地に灰白色のこまかい斑紋でおゝわれていて, 一見全体が一様に黄褐色に見える。性域や書肺気門の縁辺は濃褐色である。蛛疣の基部の左右と後に 3~4 対のはや同大の黄色斑点がある。

♂ (成) の色彩はほぼ♀と同様であるが, 腹部背面の斑紋が個体によつて多少の差がある。

**備考** 本種は, 1937 年 7 月富山県, 1938 年 8 月新潟県において採集の ♀ にもとずい

て、岸田氏の記載されたものであつた。

3) *Diaea dorsata* (FABRICIUS, 1777) Thorell, 1870. (Fam. Thomisidae) (Fig. 3, 原色図 5)

ギョウジャグモ (1915 岸田久吉氏命名) [ギョウジャは行者=修験者の意味だと云う] 当時セアカギョウジャグモ, セアカハナグモ, カワリハナグモ, ハナグモモドキの7つのものが試案として提議されている。ナカブサカニクモ (千国仮称)

昭和28年 (1953年) 9月5日筆者が長野県南安曇郡有明村の中房温泉から燕岳への登り口を約100m程登つた所 (標高1700m) の樹間で♀成1頭を採集した。実に美しい珍品種であることに感激した。

所検標本 前記の (♀) 成1頭をよりどころとして記載し、標本は筆者の No. 117 として保存してある。最初の発見地が中房温泉附近であることを記念して、和名はナカブサカニグモと仮称した。

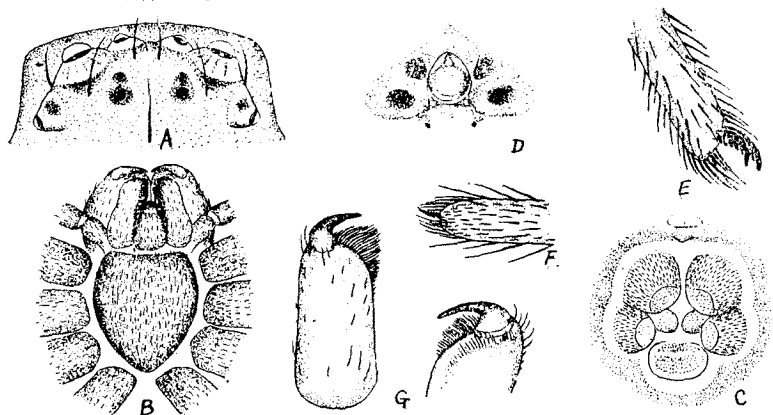


Fig. 3. ギョウジャグモ *Diaea dorsata* (FABRICIUS)

A. 眼域 (Eyegroup) B. 胸板と口器下面 (Sternum, mouth-parts from beneath), C. 蛛疣 (Spinnerets) D. ♀の性域 (Epigynum), E. 歩脚の爪 (Claw), F. 触肢の鉗節 (Tarsal claw) G. 左, 左上顎, 右, 同牙塊 (Left Chelicera)

測定 ♀ (成) の体長は 6mm, 頭胸部の長さ 2.6mm, 同幅 2.5mm, 腹部の長さ 4.0mm, 同幅 2.8mm, 触肢の長さ 3.0mm, 歩脚の長さは次の表に mm の単位で示す。

節 歩脚	基・轉	腿	膝	脛	跗	趾	全 長
第 1	1.0	3.5	1.0	3.0	2.3	1.0	11.8
第 2	1.0	3.5	1.0	3.0	2.3	1.0	11.8
第 3	1.0	2.5	1.0	1.5	1.0	0.8	7.8
第 4	1.0	2.5	1.0	1.5	1.0	0.8	7.8

**形態** (♀) 成, 頭胸部: 背甲の長さは、幅とほぼ等しく胸の部分は円形で頭の部分が胸より高く、前方にやや四角形に突き出していて刺毛を点生している。円形の中窩が深く落ちくぼんでいて、頸溝や放射溝は明瞭である。眼は8眼とも眼丘をそなえていて、前列側眼が最大で後列側眼がこれにつぎ、直眼と後列中眼とが最も小さい。直眼と後列中眼とは大きさがほぼ等しく、互に正四角形をなす位置にあり、その互の距離は眼の直径の約3倍である。前列眼は前曲(へ)して並んでいる。前列側眼の直径は直眼の約2倍で眼丘が高く斜側方を向いていて直眼からの距離は直眼相互の距離に等しい。後列側眼はやはり、前列眼の前曲円弧の上にあり前列側眼から直眼間の約1.5倍の距離をもつて位置し直眼よりやや大きく眼丘をもつて斜後側方を向いている。後列眼もやや前曲(へ)していて側眼と中眼との距離は中眼間の約1.5倍である。上顎の長さは背甲の長さの約 $\frac{3}{4}$ (約1mm)で顎下にやや斜前方に出てつき、数本の刺毛を生じている。前後両牙堤には歯を欠き、それに代つて、長毛を密生している。毛の長さは前牙堤のものの方が長い。下顎は上顎よりやや短く約0.8mmでやはり刺毛を点生し、細長くて両端は丸味があり、先端には毛を密生している。下唇の長さは下顎の約 $\frac{2}{3}$ で先端に行くにしたがつて細く、先端には細毛が密生している。

触肢には刺毛を生じ、先端の微細な毛の間に1本の爪をもっている。歩脚の脛・蹠節には長い刺毛を点生し、他の節にはそれより短い刺毛を点生している。跗節の先端には細毛を密生し、そこに二本の櫛状の爪がある。胸板は心臟形で、点々と細毛を生じている。

腹部: 腹部は楕円形でやや扁平にちかく、刺毛を点生している。胃外溝、書肺気門、性域、気管気門は明瞭である。後端の下面に三対からなる蛛疣があり、前・後疣は長く中疣は短い。何れも単節からなつていて、細毛を生じている。

**色彩** (♀) 頭胸部: 頭胸部即ち、頭胸、触肢、歩脚、上顎、下顎、下唇のすべては緑色一色にぬりつぶされている。但し、歩脚、触肢の先端の毛は褐黒色、上顎、下顎の先端の毛は茶褐色、からだに点生する刺毛は黒色である。

腹部: 腹部背面は図のように茶褐色の地に明るい黄褐色の心臓斑があり、その外側は茶黒色に色どられて、その中に赤茶色の小斑点が点在している。腹部の側面は黄色で下面にかけて次第に黄味がうすらぎ、腹下は白色である。下面の後方の両側から後端にかけて性域とは茶黒色である。頭胸部の緑色と調和して美麗なクモである。

**備考** 本種は、北方種であり、欧州ではよく知られておる。本邦では、岸田・植村両氏によつて、いわゆる本州北半と北海道とから知られており、岸田氏は、樺太各地でたしく採集しておられる。

#### 4) *Phrynarachna katoi* KISHIDA, 1938. (Fam. Thomisidae)

Japanese name: Kato Tukeogumo. カトオツケヨグモ〔加藤正世氏の附尾蛛の意味 岸田久吉氏1936命名〕トリノブンカニグモ〔千国仮称〕

昭和28年(1953年)9月7日(晴天),長野県下伊那郡川路村才三区藤治上(標高470m)の雑木林中の槲の表皮(粗度)の凹陷部に静止しているのを,関川作楽氏によつて採集された珍品種である。同氏の記録によると「前記地籍は東向段丘の温暖なる場所で,下伊那郡内でも屈指の温い所である。天龍川から約200mはなれた河川段丘の途中にある松,槲,その他の雑木林で,林の幅は約150m位のものである」。とのことである。

所検標本 前記の♀(成)1頭によつて記載し,標本は関川氏に保存を依頼してある。形態,色彩等の点から鳥の糞に似ているので私は仮りの和名をトリノフンカニグモと仮称した。

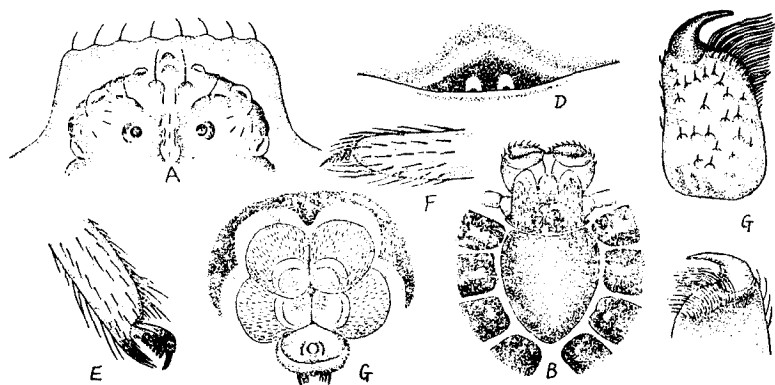


Fig. 4. カトオツクオグモ *Phrynarachna katoi* KISHIDA

A. 眼域 (Eyegroup), B. 胸板と口器下面 (Sternum, mouth-parts from beneath), C. 蛛疣 (Spinnerets) D. ♀ の性域 (Epigynum), E. 歩脚の爪 (Claw), E. ♀ の触肢の附節 (Tarsal Claw), G. 上, 左上顎 (Left Chelicera) 下, 右上顎の牙堤 (Right Chelicera)

測定 (♀) 成の体長は約7mm (上顎, 糸疣を含む) 頭胸部の長さ 3.0mm, 同幅 3.0mm, 腹部の長さ 4.0mm, 同幅 4.0mm, 触肢の長さ 2.0mm, 歩脚の長さは次の表にmmの単位で示す。

節 歩脚	基・轉	腿	膝	脛	跗	全 長	長さの順位
第 1	1.0	3.0	1.5	2.0	2.0	10.5	2
第 2	1.0	3.0	1.5	2.0	2.0	10.5	1
第 3	1.0	2.0	1.0	1.2	1.0	7.2	4
第 4	1.0	2.0	1.0	1.2	1.0	7.5	3

形態 (♀) 頭胸部: 背甲の長さは幅とほぼ等しく, 全体が円形で中高になつている。中高になつている部分は縦に長四角形で, 上面は小疣をもつた平面になつている。体全



体に図のような小疣が点在し、その頂点に1本ずつ刺毛が生えている。中窩は縦向で楔形に落ちくぼみ、頸溝も、放射溝も明瞭に落ちくぼんでいる。眼は何れも同大で眼丘をそなえて小さく、複雑な凹凸や小疣の間に図のような配置にあるので相互の距離は表現しがたい。たゞし直眼間は直眼の直径の約4倍で、上面より見れば各々の眼の距離がいずれもほぼ直眼間に等しい位置にあるようにみえる。(図参照)上顎は額下に垂直につき、やや前面は丸味をおびたふくらみをもつていて、先端はやゝ幅せまくなっている。長さは背甲の約 $\frac{1}{2}$ (1mm)で刺毛が点生している。牙堤には歯がなく、長毛を密生し、前牙堤の毛は特に長大である。下顎は長さが上顎の約 $\frac{2}{3}$ で、先端に丸味があつて、刺毛は点生している。下唇は細長く、舌形で、下顎よりも短い。触肢の末端には刺毛を密生し、先端に櫛状の爪を1本そなえている。

歩脚の才1と才2、才3と才4とはそれぞれ大きさも形態もよく似ている。何れも刺毛を点生しているが、特に各々の脛・膝節にはその他に剛毛を列生している。各歩脚の先端の跗節には細かい刺毛を密生し、その先には2本の櫛状の爪と毛束とがある。胸板は長い楕円状倒卵で細毛を点生している。

腹部：腹部は長さとおおむね等しいキンチャク形をして、背面及び側面は図のようにブドウ状(アバタ状)の疣でおおわれ、その各々の疣の頂点には1本ずつの剛毛があり、その他のところには細毛が点生している。胃外溝、書肺気門、性域、気管気門は明瞭である。後端の下面には三対からなる蛛疣があり、前・後疣は長く、中疣は短い。何れも単節で細毛を密生している。肛丘の後端には太い先のとがらない毛が生え後方にのびていて、その中1対は大きく、他の3対は小さい。

色彩(♀)頭胸部：頭胸部上面は灰白色の地に図のような黒褐色の斑紋がある。上顎の前面は灰白色で後面は黒褐色にそまり、牙と牙堤の毛とは茶褐色で上顎に生えている毛は黒色である。下顎は黒色で先端と内縁とだけは灰白色である。下唇と胸板は黒色である。歩脚は灰白色の地に基節と脛節の一部及び膝節と跗節とに黒褐色の幅広い環紋があり、その他に図のような複雑な黒褐色の斑点がある。歩脚の刺毛の色は生えている場所の地色と似ている。爪は基部が灰白色で他は黒色、束毛は茶褐色である。触肢の先端は茶褐色である。

腹部：腹部背面は全体茶褐色の地で、小疣だけが大部分黄褐色に染められている。小疣の頂点の刺毛は黒褐色である。腹部下面の書肺、書肺気門、性域は茶褐色である。側腹から下腹部にかけて白色の地で、胃外溝と蛛疣との間に凹字形の黒色の斑紋があり、且つその中に4対の茶褐色の小斑点が縦に等間隔に並んでいる。蛛疣及び、その毛は黄褐色である。

##### 5) *Heliophanus aeneus* (HAHN, 1831) sub: *Salticus*

(Fam. Salticidae)(Fig. 5, 原色図3)

Japanese name: Tibi kuro Haitori (KISHIDA, 1914)

チビクロハイトリ〔崩田久吉氏命名〕異名クロミハイトリ・クロキハイトリ・アシキハイトリ・クロミハイトリ〕

ジョウネンハイトリ (千国仮称)

昭和13年(1938年)6月29日筆者は長野県南安曇郡有明村常念岳の小屋附近(2500m)のハイマツ、ミヤマキンバイ、オンタデ等の高山植物の葉上を、鮮黄色な触肢をふりながら、すばしこく飛びまわつて、ハエなどを捕食している黒色の小蜘蛛を発見した。当日そこで採集した数は♀7頭♂2頭。合わせて9頭であつた。本種の♀♂各1頭は植村利夫氏に送り、他は筆者の標本として保存し、「日本アルプス山系の蜘蛛」の才18図版5にジョウネンハイトリとして載せ、同149ページに簡単な記載を附しておいた。その後、戦争中に標本は全部火災のため焼失してしまつた。昭和25年(1950年)7月28日、昭和27年(1952年)7月25日、常念岳の同一場所で各々成、幼数頭ずつを生きたまゝ採集し、平地に持ちかへつて飼育してみたが、再度とも二十日前後して全部死んでしまつた。

所検標本 前記の昭和26年(1951年)に採集した個体のうち、♀6頭(成2, 幼4), ♂2頭(成1, 幼1)によつて記載した。標本は筆者の No. 2 として保存してある。最初の発見地が常念岳頂上であることゝ、高山性のハイトリグモ科の蜘蛛類として常念岳以外の高山では未だ見当たらないことゝから、それを記念して和名をジョウネンハイトリと仮称した。

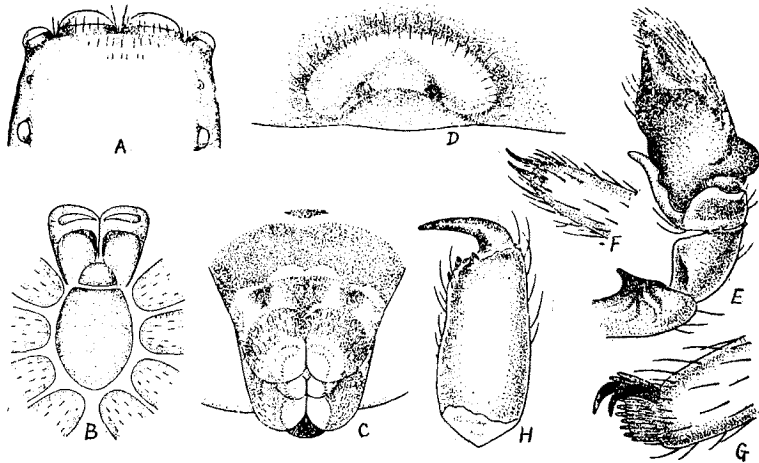


Fig. 5. チビクロハイトリ *Heliophanus aeneus* (HAHN)

A. 眼域 (Eyegroup) B. 胸版と口器下面 (Sternum, mouth-parts from beneath) C. 蜘蛛 (Spinners) D. ♀の性域 (Epigynum), E, ♂の触肢, 下面より (Palpus of male from beneath) F. ♀の触肢の附節 G. 歩脚の爪 (Claw) H. 左の上顎 (Left Chelicera)

測定♀(成)の体長(蛛疣を含む)は 5.0mm, 頭胸部の長さ 2.0mm, 同幅 1.5mm, 腹部の長さ 3.0mm, 同幅 2.0mm, 蛛疣の長さ 0.3mm, 触肢の長さ 1.2mm, 歩脚の長さは次の表に mm の単位で示す。

節 歩脚	基・轉	腿	膝	脛	蹠	趾	全長
第 1	0.2	1.0	0.4	0.7	0.4	0.6	3.3
第 2	0.2	1.0	0.3	0.7	0.4	0.6	3.2
第 3	0.2	1.0	0.4	0.8	0.6	0.4	3.4
第 4	0.2	1.2	0.5	1.0	0.6	0.4	3.9

♂(成)は体長 4.2mm, 腹部の長さ 2.0mm, 同幅 1.7mm で腹部だけは♀ののよりやゝ小形であるが, 他の頭胸部, 歩脚等の大きさは, ほとんど♀と同様である。

**形態**(♀)頭胸部: 背甲の長さは幅より大きく, 全体が上面から見て長方形, 側面から見てまんじゅう形になっている。中窩は短くてたて向きである。頸溝, 放射溝は不明瞭である。

直眼は大きく, その直径は前列側眼の約 2 倍であり, とともに筒状の眼丘があり, 額部に一列に並んでついて, 斜め下前方に向いていて, 四つの眼の距離は各々等しく, 前列側眼の直径の約 1/2 の距離をもっている。後列側眼は前列側眼の約 1/2 の直径をもち, 前列側眼の直径の約 3 倍距つた後方に位置して, それらを結んだ線は幅広い四角形をなす。後列中眼はまず両側眼間の中央(くわしくは中央よりも 1 眼だけ前方寄り)の位置にあつて, 大きさは後列側眼の約 1/2 の極く小さな眼である。上顎は額部よりやゝ後方にさがつたところに垂直についていて, 頭胸部の長さの約 1/2 で, 外縁は平行に, 内縁はやゝ外側に開いている。これを側面より見れば楔形に見える。下顎は上顎の約 1/2 の長さで, 先端は丸味をもっている。下唇部は下顎の約 1/2 の長さで, やはり先端は丸味があつて全体がまず舌形になっている。触肢の跗節には細毛があり, 末端に爪に似た刺毛を 2 本つけている。歩脚の先端には各々 2 本の爪と毛束とを備えている。胸板は一見楕円形で, 最広部は後寄りでありわずかに細毛が生えている。

腹部: 腹部は卵形で, 全体に微細な毛を生じ, 胃外溝, 書肺, 性域は明瞭である。蛛疣は腹部の末端につき, 長大で長さ約 0.8mm のもの三対からなっている。肛丘も突出している。

(♂)成は触肢の跗に容精裏があつてふくらみ, 脛にて大小二つの突起腿には大きな一つの突起がある。腹部は♀に比してやゝ小形である。その他はほとんど♀と同様である。

**色彩**(♀)成頭胸部: 頭胸全体は艶のある黒色でおゝわれ, 特に頭部は色が濃く, 点々と生えている細毛は白色であるが目立たない。上顎, 下顎, 下唇部はすべて黒褐色で, 胸板は黒色である。

触肢の基・転節及び腿節の上面は黒色、他は全部鮮黄色である。歩脚は各々基・転・腿節までは黒褐色で、他は才4歩脚の膝節の黒褐色を除いて全部鮮黄色である。歩脚の末端の毛束及び爪は黒色である。眼の色は中性である。

腹部：腹部は上面、側面、下面とも頭胸部と同じく艶のある黒色で、微細な白毛が点生しているが、特に腹背の前縁にそつた部分と、後方にハの字形になつた部分とに、共に白色の毛が密生しているので、図のような白色の斑紋が見られる。胃外溝や性域はやゝ灰黒色であり、蛛疣の下面も灰黒色である。腹部下面の後方には、白色斑点が一對ついている。

♂(成)の色彩はほとんど♀(成)と同様であるが、触肢が全体黒褐色であることゝ歩脚が膝節まで灰黒色味で次才にうすく染められ、跗節のみ黄色であることなどが異なる点である。

備考 本種は本邦産として岸田、植村…諸氏によつて古くから知られていた。北方界も北辺に普通の種である。

## 図 版 説 明

- |  |          |    |
|--|----------|----|
| 1. <i>Phrynarachna katoi</i> KISHIDA, 1936 | カトオツクオグモ | ♀  |
| 2. <i>Otunus ornata</i> KISHIDA, 1933      | オツヌグモ    | ♀  |
| 3. <i>Heliophanus aeneus</i> (HAHN, 1831)  | チビクロハイトリ | ♀  |
| 4. <i>Menosira ornata</i> KISHIDA, 1933    | キンヨウグモ   | ♀♂ |
| 5. <i>Diaea dorsata</i> (FABRICIUS, 1777)  | ギョウジャグモ  | ♀  |

### 〔図版正誤 5. FABRICIUS を FABRICIUS に〕

本図版の描画については、斎藤俊雄画家に御願ひし同氏が心よく引きうけ  
綿密なる寫生をして下さつたもので、ここに厚く御禮申し上げます(千國)

〔編者註：本原色図版は有志の方の御好意により、印刷に仕上げて寄贈を受けたものであります〕

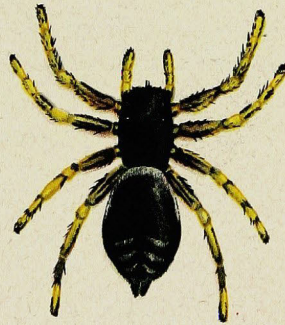
1. *Phrynarachna Kato* KISHIDA, 1936.



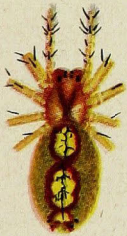
2. *Otunus delicatus* KISHIDA, 1933.



3. *Heliophanus aeneus* (HAHN, 1831)



4. *Menosira ornata* KISHIDA, 1933.



5. *Diaea dorata* (FABRIEUS, 1777).

